

GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

Message 8 – 1 Peter

Testimony through Trials

1 Peter 1-3

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第 8 メッセージ - ペテロの手紙 第一

イエスの受難の証人

ペテロの手紙 第一 1-3 章

はじめに

ペテロは、初期のキリスト教会にとって、欠かせない指導者でした。イエス様がペテロに出会い、弟子たちの中でも中心的指導者として招かれたとき、ペテロは、ガリラヤの勤勉な漁師でした。彼は、自分が主についていく価値がない者であると言いましたが（ルカ 5：8-11）、イエス様は、それでもついてきなさいと言われました。ペテロは立ち上がり、イエス様の 12 弟子の中で主要な指導者となりました。ペテロが「闇の力」サタンの攻撃に合い、イエス様を裏切った瞬までは、勇気ある行動と信仰の人でした。過度の恐れと弱さをもたらすサタンの誘惑に負け、最終的に救い主、主イエスを知ることさえ否定しました（マルコ 14：66-72）。復活されたイエス様は、真っ先に、悔いるペテロに会いに行かれ、回復され、彼の召しを再確認されました（ヨハネ 21：15-22）。後にペテロは、イエス様の予告通り、新生の教会の指導者となり、五旬節の際、

エルサレムで、ローマ帝国周辺から集まったユダヤ人たちに福音を最初に説教し（使徒 2：14-41）、初期のキリスト教会の形成と成長を開始しました。ローマ軍の船長、コルネリオの回心から始まり、福音がユダヤ人信者から異邦人の世界に出て行く際の扉を開く重要人物として、使徒行伝 10 章と 11 章で強調されています。ユダヤ当局は、ペテロが典型的なラビ的教育においては、二人が無学な普通の人であったので、ペテロがその様な卓越性と権力に立ち上がったことを知って驚きました（使徒 4:13）。ペテロは、神の目的のために、神の御手に命を委ねるとき、神は、ごく普通の人々を用いて、並外れたことをしてくださることを証しています。

ペテロは、主にユダヤ人に福音を述べ伝えるために召されました（ガラテヤ 2：7）。2 通の手紙を書き、マルコによる福音書の形成においても、重要な役割を果たしました。ペテロの助手を長年務めたマルコは、ローマにおけるペテロの説教を注意深くメモしたと伝えられています。イエスの物語の重要な部分を概説するペテロの説教は、「マルコによる福音書」の本体となりました。ローマでの宣教期間中、聴衆の中には、ギリシャ人とローマ人が混在していました。これは、マルコの福音書が旧約聖書の言及なく、「イエスの誕生」の物語もなく、キリストの教えを「行動に基づいた」ものとして提示することによって示されています。

ペテロの手紙 第一は、アジアの5つの州に離散したクリスチャンに宛てて書かれました（第一ペテロ1:1,2を参照）。これらの信者たちは、深刻な迫害に耐えていました。したがって、手紙の主な目的は、苦難を通して神を信頼することを励まし、苦しみの只中であっても、キリストへの信仰の現実を宣言することを彼らの目標とすることでした。迫害の中であって、上手く耐え忍ぶなら、試練はあなたの証となるという教えがこの手紙のテーマです。

あいさつ：1：1,2

1:1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジアおよびビテニヤに離散し寄留している人たち、**1:2** すなわち、イエス・キリストに従い、かつ、その血のそそぎを受けるために、父なる神の予知されたところによって選ばれ、御霊のきよめにあずかっている人たちへ。
恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。
(第一ペテロ1：1，2)

このあいさつの中の三位一体の形状に注意しましょう。神として、3方ともが救いの業に携わっておられます。神の主権（神によって選ばれた）と人間の責任（イエス・キリストに従うこと）の繋がりに注意してください。受取人は、ローマ帝国（今のトルコ北部）に離散した寄留者の異邦人信者とユダヤ人信者でした。手紙の中で苦難が強調されていることから、彼らがキリスト

への信仰のために迫害に遭って苦しんでいたことを明らかにします。

永遠の相続、地上における試練：1：3-9

苦難の中にある人々に宛てた手紙の書き出しに、ペテロは、この世の問題を超えて、彼らを待っている永遠の相続の保証について思い出させます。

1:3 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、**1:4** あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。**1:5** あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。（第一ペテロ1：3－5）

この人生で苦しんでいる人は励まされます。イエス・キリストを信じる私たちは、「彼の大きいなるあわれみ」のために「生ける望みに新たに生まれる」のです。この「望み」は、日常生活の中で生きる現実であると同時に、将来の永遠の保証された相続における「望み」でもあります。天の相続は、すべて保証と永続性を示す4つの描写を用いています：1) 不滅、2) 汚れがない、3) 色あせない、4) 天国に約束されている。

相続は保証されているだけでなく、相続人は、最終的に相続が受けられる日まで「神の力によって守られて」います。この人生の苦難の中に置かれている人々にとって、報酬が天国で保証されていることを知ることは、何という慰めでしょう。また、彼らが相続を受けるために、地上におけるあらゆる試練から、究極の天国の家まで、連れて行ってくださることを神は保証してくださっています。

へブル人への手紙と同様に、第一ペテロもまた、私たちが地上の状況において、永遠の視点を育むように勧めています。そうするための最良の方法は、み言通り、「**キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせる (コロサイ 3:16)**」ことです。第一ペテロの様な書物を1か月間、毎日読んで、この世の事柄へのあなたの見方がどの様に変えられるかを体験してみてください。それは、あなたの心と精神を全く別のチャンネル、つまり、神の解説が私たちのために絶えず展開されているチャンネルに合わせる様なものです。

ペテロによる彼らの試練の描写によって、当時の状況が鮮明に見えてきます。

1:6 そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試練で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。**1:7** こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いこと

が明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。**1:8** あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。**1:9** それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。(第一ペテロ 1:6-9)

「ほむべきかな」とは、偉大な救いと将来の望みを説明する以前の箇所を指します(第一ペテロ 1:3-5)。信者たち(今日の信者たちも含めて...)には、「様々な試練」を経験しているときも、苦難と悲しみを経験しているときも、大いに喜ぶべきことがあったことは確かです。ペテロは、彼らを取り乱したり、神に見捨てられたと感じたりしてはならないことを知ってもらいたいと願いました。それどころか、神の民の苦難には、神のお目的があります。彼らの信仰(金よりも貴重なもの)は、試練という名の火によって「証明」、または、精錬されました。当時、金を精錬する人は、それを液化し、表面に浮上した不純物(ドロス)をすくい取ることによって、より純粋な金を生み出しました(第一ペテロ 4:12)。神は、彼らの信仰を浄化するために、特定の「厳しい試練」(第一ペテロ 4:12)が子どもたちの生活に訪れることをお許しになります。これは、苦しんでいる信者たちに、試練の背後にある神の愛「しつけ」の御手を見て、彼らの生活に平和な義の実をもたらす様にと勧告するへブル人への手紙第12章のメッセージと非常によく似ていま

す。ペテロは、イエス・キリストを見たことがなくても、大きな信仰を持っている彼らを称賛します。彼らは神を愛し、信頼し、大いに喜んでいました。

今、試練の中におられますか？ この信者たちの様に、「迫害」に合っておられるわけではないかもしれませんが、試練は「様々な」形で訪れます。神は、あなたの信仰と人格を精錬されるために、この試練をどの様に用いられているのでしょうか？ 神は、あなたの心から、どんな不純物をすくい取ろうとしておられるのでしょうか？ 古代の金の精錬業者は、液化した金の表面に、自分の姿がはっきりと映るまで、不純物をすくって取り除きました。神は、あなたの人生に、神の人格のどの側面をより鮮明に反映しようとしておられるのでしょうか？

大いなる救いを預言した預言者たち：1：10-12

ペテロは、旧約聖書の預言がどの様に与えられたか、また預言者たちが、自身の理解を超えて、どの様に語ったかについての素晴らしい説明をします。

1:10 この救については、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。**1:11** 彼らは、自分たちのうちにいますキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかしし

た時、それは、いつの時、どんな場合をさしたのかを、調べたのである。**1:12** そして、それらについて調べたのは、自分たちのためではなくて、あなたがたのための奉仕であることを示された。それらの事は、天からつかわされた聖霊に感じて福音をあなたがたに宣べ伝えた人々によって、今や、あなたがたに告げ知らされたのであるが、これは、御使たちも、うかがい見たいと願っている事である。

(第一ペテロ1：10－12)

預言者たちは、将来起こる事として預言を理解していましたが、迫害に合っていた信者たちは、リアルタイムで「救い」の恵みを経験させていただいていることを思い出させます。神の御霊は、イエスの到来、苦難と昇天に関して、預言者に明らかにされます。特に、この箇所において、神からの啓示を預言として書き留めたとき、御霊が預言者たちを通して与えた預言の具体的な成就については知らされていませんでした。したがって、彼らは、御霊の靈感の下で、それらを書き記した後、自身が記した預言を研究し、御霊が誰について、何について預言していたかを知りたいと熱心に尋ね求めました。預言の成就是彼ら自身ではなく、後の世代に来るということだけが知らされてきました。預言者たちにとっても、預言は超自然的でした。ペテロが後の手紙で、預言者のインスピレーションが、どの様に機能したかを説明していることに注意しましょう。

1:20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。(第二ペテロ1:20, 21)

聖く生き、愛し合い、成長を追求するよう勧告：1:13-2:3

教義と義務という2つの明確な部分で構成されているパウロの手紙とは異なり、ペテロの手紙は、これらの着想の間を行き来します。ここで、キリストの再臨を待つ間、この世でいかに生きるべきかについての勧告の最初の部分に移ります。

-冷静な精神を維持し、聖なる行動を追求する。

この手紙の中で何度か、ペテロは信者たちに、世俗的で罪深い生活の古いパターンに陥らないように(1:13-16; 2:11,12; 4:1-4)、むしろ神を敬い、聖化と成長を追求するように勧告します。ヘブル人への手紙の様に、試練から逃げ出し、世俗的な喜びと安全の生活に戻る誘惑があったに違いありません。

1:13 それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。1:14 従順な子供として、無知であった時代の欲情に従わず、1:15 むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。1:16 聖書に、「わたしが

聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである」と書いてあるからである。(第一ペテロ1:13-16)

私たちの父なる神は、神に似たものとなるように、常に子どもたちに呼びかけておられます。そもそも「神のかたちに(創世記1:26,27)」私たちを創造されました。その神のかたちは罪によって傷つけられました。しかし、キリストの贖いの働き(私たちの罪のための彼の死と進行中の働き)を通して、神は、私たち一人一人の内に、神のかたちを回復されようと働いてくださっています。私たちの責任は、無知で行った以前の行いに戻らないことを選択する「従順な子どもたち」になることです。むしろ、聖霊が内に宿っておられる状態で、その聖さを反映する「聖なる」行いを追求することを選ぶことができます。

-贖いの代償を尊重する方法で生きる。

ペテロは、パウロの手紙に見られる多くの教えを繰り返します。私たちの贖い(キリストの尊い血)の代償は、私たちの人生で神を敬うことによって、神の愛に応えたいという願望を呼び起こすはずです(参照:1コリ6:19,20、パウロの平行した考え。)

1:17 あなたがたは、人をそれぞれのしわざに応じて、公平にさばくかたを、父と呼んでいるからには、地上に宿っている間を、おそのの心をもって過ごすべきである。1:18 あなたがたのよく知っているとおりの、あなたがたが先祖伝来の空疎な

生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、**1:19** きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。**1:20** キリストは、天地が造られる前から、あらかじめ知られていたのであるが、この終りの時に至って、あなたがたのために現れたのである。

1:21 あなたがたは、このキリストによって、彼を死人の中からよみがえらせて、栄光をお与えになった神を信じる者となったのであり、したがって、あなたがたの信仰と望みとは、神にかかっているのである。(第一ペテロ 1:17-21)

神は、私たち一人一人をお裁きになる「公平な判事」ですが、それでも信者として、神を「父」と呼ぶことができます。救いは、神の御子にとって代価を要したことを覚え、私たちは、神への敬虔な恐れを持って生きるべきです。

ペテロは、キリストが、天地が造られる前から存在されていた事実を強調することによって、イエス様についての誤った教えに対して戦いを挑みます。「**1:20** キリストは、天地が造られる前から、あらかじめ知られていたのであるが、この終りの時に至って、あなたがたのために現れたのである... (第一ペテロ 1:20)」すなわち、イエス様は永遠の神です。

旧約聖書の律法は、崇拜者が罪の犠牲として、目に見える「傷のない」(欠陥のない)子羊を捧げることを要しました。人々が欠陥のある羊を犠牲のために捧げようとしたとき、神

によって厳しく咎められました(参照:マラキ 1:6-10)。「最良の」供え物だけが、完全な神の小羊であるイエス・キリストを正しく描写することができました。

キリストの十字架を通して、神の私たちへの愛が示されました。これは、私たちの人生において、神を敬うための主な動機となるはずですが、どれくらいの頻度で、あなたのために捧げてくださった、キリストの犠牲について考えますか? 十字架は、キリストのために、あなたの人生を生きる動機を与えますか? 「聖金曜日」と「復活祭」が近づいています。イエス様が、あなたの罪を取り除き、神に連れ戻してくださるために支払われた代価について熟考してみてください。どうすれば、神に敬虔な恐れを示すことができますか?

-心から愛し合いなさい。

信者になったことによって、お互いを愛する方法は大きく変わったはずですが、ここでペテロが救いを説明する二つの描写(あなたは再生し、魂は浄化された。)と、お互いに心から熱く愛し合いなさいと勧告しているところに注目してください。

1:22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい。**1:23** あなたがたが新たに生れ

たのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によったのである。

1:24 「人はみな草のごとく、その栄華はみな草の花に似ている。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は、とこしえに残る」。1:25 これが、あなたがたに宣べ伝えられた御言葉である。（第一ペテロ 1：22－25）

イエス様は、言われました。「13:35 互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」（ヨハネ 13：34,35; 15：12,17）。使徒ヨハネは、神への愛は、互いに愛し合う方法によって示され、明らかにされると言っています（1ヨハネ 4：7-11）。

-混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。

ペテロは、霊的な再生に関連して、上記の「神の変ることのない生ける御言」に言及しています。ここで、霊的成長過程における神のみ言の継続的な重要性を強調しています。

2:1 だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、2:2 今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。2:3 あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。（第一ペテロ 2：1－3）

信者にとって、神のみ言の混じりけのない霊の乳の必要性がなくなることは決してありません。神のみ言に聞き従い続けるとき、救いの内に成長し続けます。一方、神のみ言の混じりけのない霊の乳を断つとき、神の子としての成長は妨げられます。

神の「霊の乳」の摂取は、どれほど濃く、定期的ですか？ 霊的成長は、神のみ言の摂取に直接関係します。神のみ言の摂取を増やし、深めるために何ができるでしょうか？ 参加できる聖書研究グループはありますか？ あなたが一ヶ月間専念できる聖書の特定の書物がありますか？ 創世記からの解説ノートを研究することによって、聖書シリーズをより深く追求することは可能ですか？ 神のみ言の摂取量を増やし、霊的な成長が飛躍する方法を見つけましょう！

選ばれた民：2：4-10

ペテロは、一連の旧約聖書の箇所を用いて、神の新しい「霊的神殿」（例：神殿の代わりに霊的神殿）を建てる際のイエス様と各信者の役割を説明します。イエス様は、建設者たちに拒絶された石です。しかし、その建物の「主要な礎石」となられました（参照：イザヤ 8:14; 28:16、詩篇 118：22）。古い建造物の一角には、未だに、巨大な礎石が用いられていて、しばしば言葉が刻まれています。建物の正しい構造に石の基礎は不可欠です。その後、他の石を置くことができます。このイメージの

比喩として、キリストは、教会の主要な礎石を表しており、各信者は、神のこの新しい「靈的神殿」に置かれた「生ける石」です。すべての信者は、普遍的な「靈的神殿」、つまり「神の家族」の中の「生ける石」です。

2:4 主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。**2:5** この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、靈の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によろこばれる靈のいけにえを、ささげなさい。**2:6** 聖書にこう書いてある、「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して、失望に終ることがない」。**2:7** この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものであるが、不信仰な人々には「家造りらの捨てた石で、隅のかしら石となったもの」、**2:8** また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。（第一ペテロ 2：4－8）

「石」（キリスト）を拒絶し、神のみ言に従わず、約束されたメシアを拒絶した「建設者」は、神を十字架につけました。彼らにとって、イエスは動かせない岩だったので、イエスにつまずきました。「不信仰者は個々に神に背く運命にあるわけではありませんが、従わない人はつまずく（つまり靈的に倒れる）

というのは事前に決められた原則です。」（クレイグ・L・ブルムバーグ著書：Pentecost to Patmos、450頁）。

出エジプト記 19 章 5,6 節は、旧約聖書のイスラエルの民の役割を理解するための重要な箇所です。神は、イスラエルを神の特別な国であり、彼らの行いを通して、世に神を代表する祭司の国であると呼ばれました。ここで、ペテロは同じ考えを用いて、新約聖書の神の教会について言及しています。

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。**2:10** あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。（第一ペテロ 2：9，10）

教会の目的は何でしょうか？簡単に言えば、神の人格の素晴らしさを監視する世に示し、宣言することです。神は常に神を知り世に知らせたいと願う人々を探しておられます。神は、人をお用いになって、人に手を差し伸べられます。これは、常に神のやり方でした。

神は、あなたをどの様に用いて、あなたの影響範囲にいる人々に、神を示しておられるでしょうか？神の性格を明確に示す必要のある、あらゆる場所に信者を置かれます。あなた

の職場も、学校も、市場も、近所も、ジムも…すべて、神があなたを通して周囲の人々に神の性格を明らかにするために配属された場です。神の卓越性をあなたの影響範囲に宣言するために召されているという重要性に気づかせていただくために祈り求めてください。今週、より効果的に宣教するべき方法を尋ねましょう。

御心を行いたいと願うがゆえに苦しみを受ける：2：11-3：7

この手紙は、苦難を中心に据えています。地上における試練の只中に、神に望みを抱き続けることです。重要な問題は、キリストについての信者による最大の証は、困難な状況で苦しんでいる間にこそ、もたらされるかもしれないということです。一連の例が続き、すべてがこの幅広いテーマに当てはまります。

-中傷的攻撃への対応。

2:11 愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。2:12 異邦人の中であって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになろう。

(第一ペテロ2：11, 12)

第一ペテロ2章12節は、マタイの福音書第5章16節で、イエス様が弟子たちに「5:16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と言われた箇所と非常によく似ています。ペテロのメッセージは、迫害者が苦しみに対するあなたの反応を見て、彼らが神に悔い改め、キリストが再臨されたときに最終的に神を賛美するように、迫害者の前であなたの光を輝かせましょうというところに焦点を当てています。

-不当な公の権威への対応。

迫害の文脈においてさえ、信者は公の権威に服従し、彼らを敬うようにと求められています。この手紙のテーマがここに鮮明に現れています。迫害に直面した信者の行動が、彼らの最大の証になる可能性があるということです。正しいことをすることによって、愚かな人々の無知を沈黙させることが可能となるかもしれません。

2:13 あなたがたは、すべて人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと、2:14 あるいは、悪を行う者を罰し善を行う者を賞するために、王からつかわされた長官であろうと、これに従いなさい。2:15 善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じるのは、神の御旨なのである。2:16 自由人にふさわしく行動しなさい。ただ

し、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。2:17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。(第一ペテロ2:13-17)

公の権威に対する信者の責任に関する、パウロの教えとの強い繋がりに注意してください(ローマ第13章)。初期のキリスト教会は、迫害を永続させていた権威そのものに対して「敬意を表する」姿勢を保ちながら、確信をしっかりと守ることのバランスを見出しました。必要に応じて、神に従い、世俗的権威に従わず、それでも王や知事に敬意を示しました。

「クリスチャン」と自称する多くの人々が、公の権威に対して不名誉で無礼な態度を示している場をよく目にするため、これは今日議論する重要な問題です(皇帝ネロがクリスチャンを迫害していたので、その文脈で服従するように忠告されたことを思い出してください)。公的権威の見解や方針に強く反対している場合でも、公の権威に対する「敬意」の態度を促すために何ができるでしょうか。友だちの輪に「2:17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊ぶ(ペトロの手紙-2:17)」ために、どの様に励ますことができますか。

-横暴な主人に対応する召使い。

ペテロが召使いと主人の関係について記した内容は、不当な扱い(試練)を神の性格の卓越性を示す機会と見なすというより広いテーマに正確に適合しています。これはパウロとは

異なり、ペテロが主人の義務に注意を払わず、横暴な主人の召使いについてのみ注意を払っている理由を説明しています。

2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。(第一ペテロ2:18-20)

優しい教師や、親切な上司や、友好的な政治家などに敬意を表すのは容易です。しかし、クリスチャンは、服従するのが簡単ではない「権威」にも敬意を表すよう求められます。あなたの人生の中で、誰もが尊敬することが難しい指導者はいますか?文化に反して、横暴な指導者を称えることによって、神は、どの様にあなたをお用いになっておられ、あなたはどの様にイエス様を示すことができますか?

-信者が受難の中でどう対処するべきか、キリストご自身が模範を見せてくださった。

イエスの受難と死は、人類の罪の贖いのためのいけにえとしてだけでなく、苦難に耐え忍ぶための模範であり、信者たちの試練を証に変える方法であるとペテロは議論します。不

当な扱いを受けて苦しめられている間、イエス様がどの様に振る舞われたかに重点が置かれます。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。**2:22** キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。**2:23** ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。**2:24** さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。**2:25** あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。（第一ペテロ 2：21－25）

ここでのペテロの中心的メッセージは、イエス様が受難を通して、私たちが苦難の時に、どう対処するべきかの模範を示してくださったということです。私たちに彼の足跡をたどるべき模範を残されました。

イエス様は、…

- 罪を犯すことも、欺くこともありませんでした。
- 罵る人々に対して、罵り返されませんでした。
- 受難の責任者を脅かされませんでした。
- すべての義の判事である父に、ご自身を委ね続けられました。

これが、この世での迫害と苦難に耐えるように信者が召されている方法であるとペテロは言います。この方法でのみ、迫害された信者は「**2:15** 善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じる（第一ペテロ 2:15）」こととなります。注：これは、イザヤ書 53 章の「神の苦しむしもべ」の一節を言及している新約聖書の唯一の箇所です。

-困難な夫に対応する妻。

初めてこの箇所を読むとき、パウロが、エペソ人への手紙第 5 章や、コロサイ人への手紙第 3 章で、夫は妻を愛しなさいという平等な教えを記述した様に、ペテロは、なぜこの箇所では記述しなかったのか不思議に思われるかもしれません。第一ペテロ全体的な強調（困難に対する信者の反応がいかに信仰の証となり得る）を念頭に置くと、彼の意図を理解することができます。彼は特に、未信者（み言に従わない）の夫との結婚に苦しんでいる女性に話しかけています。言い換えれば、信者に苦難をもたらすのは、この場合、夫です。妻たちの静かで敬虔な反応によって、「言葉なしで夫を救う」かもしれません。

3:1 同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとえ御言に従わない夫であっても、**3:2** あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救いに入れられるようになるであろう。**3:3** あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りで

はなく、3:4 かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。3:5 むかし、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、このように身を飾って、その夫に仕えたのである。3:6 たとえば、サラはアブラハムに仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、何事にもおびえ臆することなく善を行えば、サラの娘たちとなるのである。

(第一ペテロ 3 : 1 - 6)

注：「妻」の模範については、第一ペテロの解説の第2部で詳しく説明します。

未信者の夫については、上記(第一ペテロ 3 : 1)に触れられていますが、信者の夫には、妻を愛し、敬う方法についての強い勧告が与えられています。

3:7 夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためである。(3 : 7)

文字通り、「知識に従って妻と共に住み」なさい(妻たちの独特の性格と必要の知識)。「女は自分よりも弱い器である」という箇所は、2つの異なる方法で解釈されてきました。これは物理的に弱いことを意味すると主張する人たちもいますが、それは文脈上あまり意味がありません。女性の高められた関係的

及び、感情的な感受性への言及を主張する人たちもいます。女性は男性よりも「柔らかく(繊細)」、過酷さによって傷つきやすくなっています。荒々しい夫によってもたらされた試練の文脈から(第一ペテロ 3 : 1)、この解釈の方がはるかに理になっています。

夫たちよ。あなたがたも同じ様に、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住みなさい。あなたの荒々しさに、妻が傷つきやすいことを知って、親切に接しなさい。いのちの恵みをともに受け継ぐ相続人として、尊びなさい。でなければ、神はあなたの祈りを聞かれないでしょう！

信者が互いに愛し合う方法の要約：3 : 8-12

ペテロは、信者が自分たちの生活を困難にする人々に対して、いかに反応するかに関心をもちました。ここで、ペテロは、1章22節のテーマ、信者が神の家族の中で互いに調和して生きる方法に戻ります。人生に神の祝福を願うなら、お互いに謙遜さを示しながら、神の道を歩もうとしていることを確認しなさいと、詩篇34篇からの引用を用いています。

3:8 最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、

かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。3:10「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、3:11 悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。3:12 主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう」。(第一ペテロ 3 : 8 - 12)

正しいことを行うために苦しむことをいとわない：

3 : 13-17

ここでペテロは、苦難のテーマに戻ります。「悪いことを行うために」ではなく、「良いことのために」、「義のために」、「正しいことを行うために」苦難に耐え忍ぶことについて言及しています(第一ペテロ 2 : 19,20)。悪いことをして、苦しみに耐え忍んだとしても証にはなりません。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶとき、証となります。

3:13 そこで、もしあなたがたが善に熱心であれば、だれが、あなたがたに危害を加えようか。3:14 しかし、万一義のために苦しむようなことがあっても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない。3:15 ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。3:16 しかし、やさしく、

慎み深く、明らかな良心をもって、弁明しなさい。そうすれば、あなたがたがキリストにあって営んでいる良い生活をそしめる人々も、そのようにののしったことを恥じいるであろう。3:17 善をおこなって苦しむことは—それが神の御旨であれば—悪をおこなって苦しむよりも、まさっている。(第一ペテロ 3 : 13 - 17)

私たち信者には、困難な人生の嵐を乗り越える希望があるので、苦しみや迫害に直面しても、自信を持って立つことができます。この「生ける望み」(第一ペテロ 1 : 3, 13, 21; 3 : 5, 15)のお陰で、私たちの行動を脅かし、恥をかかせようとする人々に神の愛の光を照らすことができます。15 節の真意は、「彼らの恐れを恐れてはならない。」ということです。

クリスチャンとして、ペテロの手紙 第一 3 章 15 節を「黙示録」の教えの裏付けとして用いることが一般的です。ここでギリシャ語の弁明(防衛)が用いられているのは事実です。しかし、競合するイデオロギー議論とは何の関係もありません。文脈から、不当に苦しみ、過酷な扱いを受けていることを指していると言えます。苦難の文脈において、クリスチャンは、なぜその様に厳かに、非敵対的に苦難に耐え忍ぶのかを説明できるように準備しておく必要があります。優しさと畏敬の念を持って(厳しく、蔑まれる様な扱いに直面して)、信者はキリストへの生きる望みと自信を説明する必要があります。

クリスチャンは、玄関マツトになることなく、迫害に直面したときに、いかに穏やかに敬意を表する態度を保つことができるのでしょうか？ 必要に応じて、キリストの様な態度で他の人に真理を語る場所があります。旧約聖書の箴言には、態度、言葉、行動において、彼らの様にならないために、「愚か者」に応えたり、議論したりしないための手引きがあります。特定の公の権威の場合、あなたには声にする「権利」もないかもしれませんが、神は確かにあなたが知恵を求める祈りを聞かれます。ローマ人への手紙 12 章 14-19 節を読んでください。これらの聖句は、ペテロによる、私たちへのチャレンジを明確にするのを助けます。

最終的な考え：イグナティウスは、2世紀のキリスト教の指導者でした。迫害に対するクリスチャンの反応について、記した事柄は、ペテロによる第一の手紙についての素晴らしい解説として役立ちます。イグナティウスは、エペソ人に「少なくともあなたの行いによって迫害者たちが、あなたから指示を受け留めることを許すために」と助言しました。彼らの怒りに対して優しく接し、彼らの自慢に対して謙虚になり、彼らの誹謗中傷に対して祈りを捧げ、彼らの過ちに対して信仰を堅持し、彼らの残酷さに対して冷静でいなさい。彼らを真似ることに熱心にならなはいけません。迫害の只中にイエスを伝えることは、説得力のある雄弁以上に力がありま

す。キリスト教は世に嫌われているときに最大の力を発揮します」(ローマ人への手紙 3.3)。

ディスカッションの質問

1. 苦しみと迫害について、第一ペテロから何を学びましたか。
2. 自分の信仰が試練によって「浄化」された体験がありますか(第一ペテロ 1:6-9)。
3. 受難におけるイエス様の模範は、あなたに何を語りかけましたか(第一ペテロ 2:21-25)？
4. 神はあなたに、素晴らしい試練をキリストへのあなたの望みの素晴らしい証に変える機会を与えておられますか？